

・医師と家族の対立が生れないように、患者自身の思いを聞く。その役割は⇒看護師、介護士（患者や家族に寄り添いながら、価値観を大切にする）

## ②地域住民の形

安全と安心、最期にはどっちが大事？

「安全」とは、客観的な一定の基準が守られていてリスクが少ないこと

「安心」は自分の心が安らいでいるかどうか

- 安心できるとき
- 苦痛が少ない時
  - 楽観的思考を得られている
  - 自分を肯定している
  - 対人関係が良好である

「安心な地域」を創るのは住民



## ③医療の仕組みを変える

大病院（安全）、地域のクリニックがそれぞれの強みを活かし棲み分けができ、患者自身の事をわかっているかかりつけ医（安心）が在宅対応できるようにする。



明日の地域医療を考える住民の会・あした葉 会長 伊世利子さん

日ごろ診療にあたり考えられている地域医療に関すること、街づくりのことを聞いていただき、これからの地域医療、地域のあり方の参考にしていただけたらと考えております。より良い街づくりのために一緒に学んで参りましょう。

TEL 090-8325-8816 FAX 059-321-4706 E-mail: wkiwkiriko@solid.ocn.ne.jp

## —まとめ—

- 患者自身がどう思っているかを「わからない」も含めて伝えられること また聞き出せること
- 看護師や介護士が、※コメディカルの役割の認識をして医者以外の人たちが中心になる
- 地域住民がコミュニティを作り、孤独な人たち、困っている人たちを見捨てないまちづくりを進める
- かかりつけ医が機能する仕組みを創る

※コメディカル：医師や歯科医師の指示の下に業務を行う医療従事者を指す

この仕事をしていると、人間死ぬ時、生き方そのものが出ると思います。ちゃんと生きてきた人はちゃんと亡くなります。その人たちが何十年と生きてきたものを大切にできるかです。高齢者だけでなく、障害のある方、シングルマザー、LGBTなどすべての人の価値観を大切に、望む生を生きられるような地域をみんなで創っていくことが、本当の地域包括ケアだと思いますし、私たちが目指しているものだと考えています。

ありがとうございました。

## 取材

3月27日（水）に四日市公害と環境未来館で開催された、いま全国的に問題になっている自然を壊してまでメガソーラーが必要なかを問うイベントを取材しました。



四日市市エコパートナー事業

あしみ

足見川バードウォッチングと

『生きている森林』の危機

参加者からは 98ha というあまりの広さの開発に驚き生態系や住民生活にかなりの影響があるのではと心配の声があがった。

企画：水・空気・緑・大地と市民生活をよくする会

主催：四日市公害と環境未来館

希少生物を  
メガソーラー  
から守れるのか？